

乙女高原が好き！ 1703 号

乙女高原の復活!! お花畑が戻ってきた

2015 年初夏、まだシカ柵が設置されていませんでした。三枝さんが遊歩道を歩き回って見つけたアヤメの花はたった18。それが、シカ柵元年である 2016 年に三枝さんが数えたら100。今年とはいうと…野鳥を数えるためのカウンターを使って100本の花を数えます。「100本でこれだけの広さだから、これで100本、あれで100本…」というように、見当を付けます。同じことをアヤメがたくさん咲いている3箇所で行い、草原全体では1000本以上のアヤメの花があると算定しました。すごいです、アヤメ復活。



アヤメ復活を喜びと同時に、データを残すことの大切さを痛感しました。アヤメの復活を数字で表すことができたのは、三枝さんがアヤメの花の数を数え、その数字を残しておいてくれたからです。「数を数える。それを記録として残す」…たったそれだけのことですが、やるのとやらないのとでは、後から雲泥の差になっていくんだなと思いました。

お次は夏のオミナエシです。2010 年 8 月 8 日、草原内をくまなく歩き、見つけたオミナエシの花はたった1株、2014 年 8 月 2 日は3株でした。ところが、今年はおミナエシのつぼみがやたら目立ちます。うれしくなって数えてみました。7 月 30 日、三枝さんが数えて350、植原が数えて381、翌朝もう一度植原が数えたら409でした。これから本格的に花が咲くと、黄色が目立ち、見つけやすくなるので、さらに増えることでしょう。

このように、シカ柵2シーズン目を迎え、乙女のお花たちは確実に回復しています。ヤナギランやオオバギボウシが複数咲いているのを見るのは何年かぶりだと思います。オケラやハバヤマボクチも久しぶりで。今から思えば、きちんと数字を残しておけばよかった…と後悔しています。

さて、このように、シカ柵の効果は絶大ですが、心配や課題もあります。最大の課題は「シカ以外の動物も門前払いしてしまうのではないか？」ということでした。キツネやテンなどが進入できないと、柵内で野ネズミが増えるなどして、生態系のバランスが崩れる恐れがありました。でも、これは杞憂でした。キツネは素知らぬ顔で、柵の内外を行ったり来たりしています。雪の上に残された足跡が、それを雄弁に物語っていました。夏も柵内のところどころで「動物園の臭い=キツネ臭」がしました。

第2は、「元来日本の動物なのに、シカだけを排除していいのか？」という疑問です。これは疑問というより「負い目」という感じでしょうか。ですが、シカは増えすぎていると判断しました（いつに比べて「増えた」と判断するの?…という根本的な疑問はあります）。そして、「増えた」ことに対する順応的な対処として総延長1kmのシカ柵設置を決めました。この判断が本当に適切だったかどうかは未来の乙女高原ファンに検証していただかなければなりません。現段階では最良の判断をしたと思っています。

そして、第3。シカ柵設置2シーズン目を迎えて「そうか、こういうこともあるのか」と思ったことがあります。それは外来植物の増加です。シカ柵がなかったころ、シカは外来種も食べていたのでしょう。確かにヒメジオンやメマツヨイグサはありましたが、そんなに目立ちませんでした。ところが、今年はやたら目立つのです。柵を作ったことで、シカが外来種を食べられなくなったのが原因ではないかと思っています。



「このままでは爆発的に増える可能性がある。そうなるからでは駆除は難

しい」と考え、峡東林務環境事務所県有林課とも相談しながら、できる範囲でこの2種の外来種を駆除することにしました。人があまり来ていない時間帯に、腕章等をつけて誤解されないよう注意しながら、草原の中にできるだけそっと入り、ヒメジオンとメマツヨイグサをできるだけ根っこから引っっこ抜きました。多くの乙女高原案内人やファンクラブ会員の方々のご協力もあり、数日間で60kgもの外来種を駆除することができました。乙女高原のヒメジオンとメマツヨイグサはほぼ駆除できたと思います。来年、同じように駆除して、その重さを今年と比べてみたいと思います。

さて、乙女高原の「復活」と書きましたが、「元どおり」とはちょっと違いました。当たり前のことですが、植物によって、シカから受けるダメージが違いますし、回復力も違います。シカ柵設置1年目(2016年)、ワレモコウばかりがものすごく増えました。お花が増えたことはうれしいのですが、「自分が知ってる乙女高原の景色ではない」と思いました。そして2年目の今年(2017年)、アヤメやオミナエシが増えました。シラヤマギクやマツムシソウも。いずれは元どおりの乙女高原の草原になるかもしれません。今はその途上ということなのでしょう。

一方、お花の種類によっては、回復どころか大繁栄するものが出てくるかもしれません。自分たちの知らない乙女高原の姿へと変わっていく可能性もなくはありません。いずれにせよ、シカ柵を作った一人として、今後も見つめ続けたいと思います。

今年のマルハナバチの状況は？ 第15期マルハナバチ調べ隊 お花は復活・・・では、マルハナバチは？

2004年6月26日(曇)ラインセンサス結果

| No | 植物名 | コ | トラ | オオ | ミヤマ | 計 |
|----|-------|---|----|----|-----|---|
| 1 | アヤメ | | 3 | | 3 | 6 |
| | 飛んでいた | | 1 | | | 1 |
| 合計 | | 0 | 4 | 0 | 3 | 7 |

今年も年3回のマルハナバチ調べ隊を無事行うことができました。初夏6月25日の参加者5人、盛夏8月5日12人、初秋9月9日11人。楽しく調査ができました。一番古い2004年のデータと比較してみたいと思います。もっとも今年6月はマルハナバチ個体数0だったので、比較できませんが。

2004年8月3日(曇)ラインセンサス結果

| No | 植物名 | コ | トラ | オオ | ミヤマ | 計 |
|----|---------|---|----|----|-----|----|
| 1 | クガイソウ● | | | 18 | 2 | 20 |
| 2 | ヒメトラノオ● | | | 14 | | 14 |
| 3 | ノハラアザミ● | | 8 | 1 | 2 | 11 |
| 4 | ヤナギラン | | | 9 | | 9 |
| 5 | ヤマハギ● | | 1 | | 2 | 3 |
| 6 | タチフウロ● | | | 1 | 1 | 2 |
| 7 | ノアザミ● | | 1 | | | 1 |
| 8 | オオバギボウシ | | 1 | | | 1 |
| 9 | チダケサシ | | | 1 | | 1 |
| | 飛んでいた | | 1 | | | 1 |
| 合計 | | 0 | 12 | 44 | 7 | 63 |

2017年8月5日(晴 21℃)ラインセンサス結果

| No | 植物名 | コ | トラ | オオ | ミヤマ | 計 |
|----|---------|---|----|----|-----|----|
| 1 | ノハラアザミ● | | 2 | 1 | 10 | 13 |
| 2 | クガイソウ● | | | 5 | 5 | 10 |
| 3 | ヤマハギ● | | | | 8 | 8 |
| 4 | タチフウロ● | | | 2 | 3 | 5 |
| 5 | キンバイソウ | | | 4 | | 4 |
| 6 | マツムシソウ | | | | 2 | 2 |
| 7 | キリンソウ | | | | 2 | 2 |
| 8 | ヒメトラノオ● | | | 1 | | 1 |
| 9 | ノアザミ● | | | | 1 | 1 |
| 10 | シモツケ | | 1 | | | 1 |
| 合計 | | 0 | 3 | 13 | 31 | 47 |

2004年9月12日(晴)ラインセンサス結果

| No | 植物名 | コ | トラ | オオ | ミヤマ | 不明 | 計 |
|----|-----------|---|----|----|-----|----|----|
| 1 | タムラソウ▲ | | | 3 | 6 | 1 | 10 |
| 2 | セイタカトウヒレン | | | 1 | 3 | | 4 |
| 3 | ハバヤマボクチ | | 2 | | | | 2 |
| 4 | ノハラアザミ▲ | | | | 2 | | 2 |
| 5 | モリアザミ▲ | | | | 1 | | 1 |
| | 飛んでいた | | | | 1 | | 1 |
| 合計 | | 0 | 2 | 4 | 13 | 1 | 20 |

2017年9月9日(晴 15.5℃)ラインセンサス結果

| No | 植物名 | コ | トラ | オオ | ミヤマ | 計 |
|----|---------|---|----|----|-----|----|
| 1 | ノハラアザミ▲ | | | | 13 | 13 |
| 2 | タムラソウ▲ | | 4 | 2 | 5 | 11 |
| 3 | ヤマハギ | | | | 3 | 3 |
| 4 | マツムシソウ | | | | 2 | 2 |
| 5 | ウツボグサ | | | | 1 | 1 |
| 6 | モリアザミ▲ | | | | 1 | 1 |
| 合計 | | 0 | 4 | 2 | 25 | 31 |

この表は、ラインセンサスといって、ちょうど1時間かけて設定した同じルートを歩きながら見つけたマルハナバチを記録するという調査の結果です。調べ隊の午前中に行っています。植物とマルハナバチのマトリックスになっているので、「どんな花がマルハナバチに人気があるのか」とか「特定のマルハナバチに人気の花はなにか」といったことが見えてきます。

まず6月ですが、今年の方はありません。0頭だったからです。記録をひっくり返してみたら15年間の調査のうち5回は0でした。標高1,700mの乙女高原ではこの時期まだまだ寒く、天気が悪いとマルハナバチが飛ばなかったり、そうでなくても春が遅いとマルハナバチが少ないことは十分ありえます。また、草原に花の少ないこの時期には、マルハナバチたちは草原より森の木々の花を訪れているような気がしています。

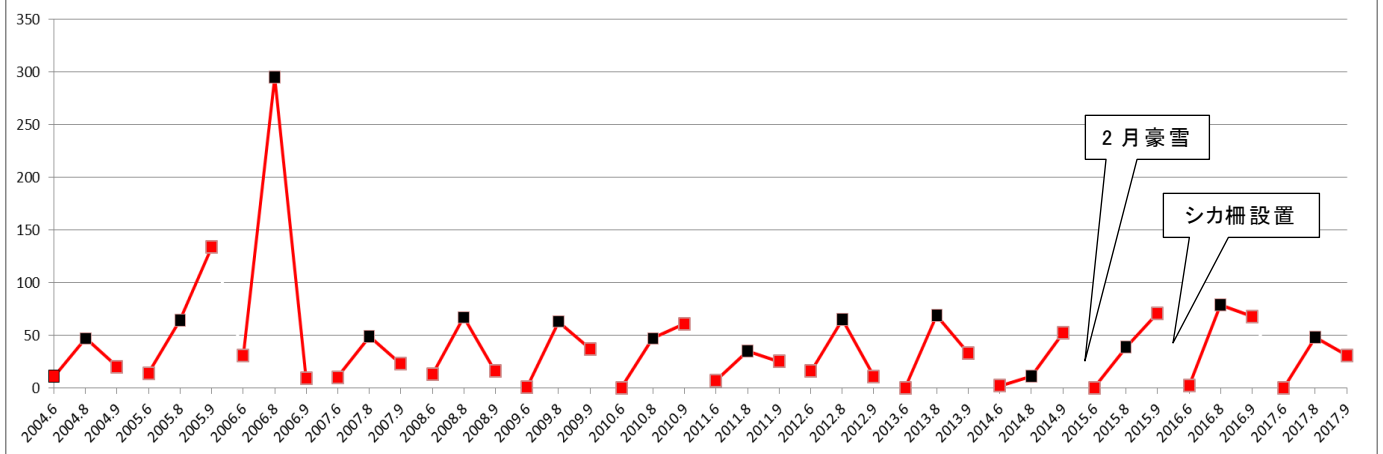
8月はどちらも10種類ほどの花を訪れていました。共通種には●印を付けています。2004年はヤナギランに11頭も訪れていますが、今年は0。ヤナギランはここ数年、ほとんど花が見られなくなっています。そのかわり、今年はキンバイソウを多く訪れていました。2004年にはキンバイソウに来ていたという記録がありません。キンバイソウは蜜が多くないらしく、マルハナバチが訪れるとしたら、花粉を集めていることが多いです。つまり、マルハナバチにとって、あまり魅力のある花とはいえません。そんな花を訪れているのですから、マルハナバチの台所事情は、まだまだ2004年より悪いのかもしれない。あるいは、シカの食害によってもあまり数を減らさなかったキンバイソウですから、相対的に他の花を巡るより花粉を多く集められるのかもしれない(花の数が多いの)。マルハナバチの内訳をみると、トラとオオが減り、ミヤマが多くなっています。

9月はどちらも5種類ほどの花を訪れていました。共通種には▲印を付けました。2004年で多く訪れていたセイタカトウヒレンとハバヤマボクチは、今年はまだ咲いていませんでした。ミヤマが多いのは両年に共通していました。

このように蓄積されたデータを整理し、それを眺めながらあーでもないこーでもないと考える(考察する)のはとても楽しいです。来年も楽しく「マルハナバチ調べ隊」を続けましょう。



マルハナバチのラインセンサス全個体数



今年の夏も 乙女高原で案内活動実施



今年の夏も、山本さんを中心に、内藤さん、三枝さん、芳賀さんら乙女高原案内人の皆さんが乙女高原で案内活動をしてくださいました。右の7日間、朝から夕方までロジ前に待機し、訪れた方と会話したり、案内したりしたのです。今年の7月下旬から8月上旬にかけては天候不順で日照時間も少なかったのですが、天気が悪くても乙女高原にはそれなりに人が来ていたそうです。

いくつかの団体からも案内の依頼がありました。また、案内した方を乙女高原観察交流会にお誘いすることもあったそうです。

案内人の皆さん、案内活動ご苦労さまでした。来年もよろしくお祈りします。

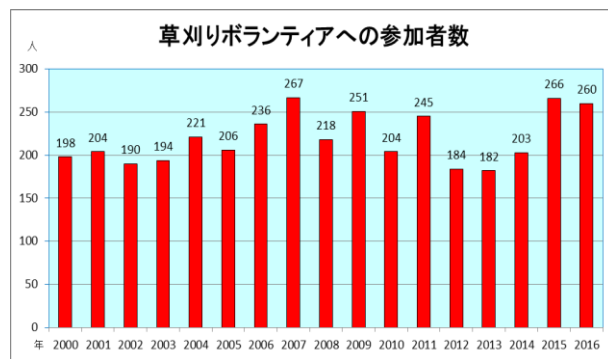
- 【案内人活動日】**
- ① 7月29日(土)
 - ② 30日(日)
 - ③ 8月5日(土)
 - ④ 6日(日)
 - ⑤ 11日(金・祝)
 - ⑥ 12日(土)
 - ⑦ 13日(日)

ここがスゴイ！ 乙女高原草刈りボランティア

2017年11月23日(木・祝)第18回 主催:乙女高原ファンクラブ・山梨市・山梨県

① 毎年200人も集まるよ！

乙女高原は、街灯もない、自販機もない、宿泊施設もない、へんぴな所です。夜は真っ暗。そんな高原に、毎年200人もの乙女高原ファンが集まり、乙女高原の草原を保全するために汗を流します。



② 17年間、雨なしだよ！

2000年に始まったボランティアによる草刈り。今年で18年目(回目)になりますが、今まで中止になったことはありません。天気予報が雨でも降らなかった年もあります。さて、今年は??

③ 刈った草はゴミ収集車で運ぶよ！

刈った草は、地元リサイクル業者「田丸」さん提供のゴミ収集車に載せて、琴川ダムを建設したときの残土処分場に運びこんでいます。緑化がなかなか進まない処分場に地元の植物の種を供給します。



④ 子ども向けプログラムもあるよ！

「ブナじいさんの根元に落ち葉のふとんをかけてあげる」という子ども向け環境プログラムを用意しています。ぜひブナじいさんの大きな体を見て、パワーをもらってくださいね。



⑤ 駅から送迎バスが出るよ！

このイベントに合わせて山梨市駅から送迎バスを運行します。問い合わせ・申し込みはメールのみ。otomefc@fruits.jp
詳しくは <http://blog.goo.ne.jp/otomebus>



⑥ おいしい豚汁が出るよ！

お昼においしい豚汁が振る舞われます。この豚汁こそ草刈りボランティアの歴史そのもの。材料の肉や野菜や味噌は乙女高原ファンの方々からの寄付。給水車や巨大鍋は市からの借りもの。お代わり自由！

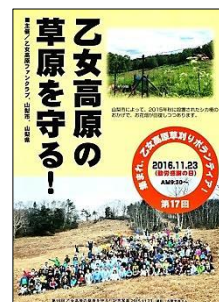


⑦ 100年以上も続いているんだよ！

少なくとも江戸時代には、乙女高原は麓の村々の共有の草刈り場で、秋になると、草を刈って持ち出していました。冬の間の馬の餌に足したり、畑で燃やして肥料にしたそうです。戦後はスキー場として開発され、スキー場管理のために草刈りが続けられました。そして今、ボランティアによる草刈りです。乙女高原の草刈りの歴史は100年以上です。

⑧ 記念写真が来年のちらしになるよ！

毎年、参加した皆さんの集合写真を撮り、それが次の年のちらしの表紙を飾ります。お楽しみに！



第18回乙女高原の草原を守る！ 草刈りボランティア

- 日時 11月23日(木・祝) 少雨決行 午前9時半から午後2時 ※荒天の場合26日(日)
- 集合 乙女高原グリーンロッジ
- 持ち物 弁当, 飲み物, 軍手, 雨具, おわん・はし(豚汁用), お持ちの方はかまなどの道具。
- 参加費 無料(主催者負担で保険に加入)
- 内容 草刈り, 草の運び出し, ロープ回収, ゴミ拾い, キッズボランティア, 豚汁作りなど
※2012年の草刈りの様子を見ることができます(YouTube「風の言葉 乙女高原」で検索)

今年も11月23日は乙女高原の草刈り!!

今年で18回(年)目となる、ボランティアによる乙女高原の草刈り作業。このイベントの自慢できるところは、「毎年同じ」ではなく、少しずつですが進化し続けているところです。キッズボランティア、刈り草運びにビニールシートの活用、ごみ収集車による刈り草運びと藁撒き…。反対に、変わらない点もあります。200人を越える参加者、市・県・ファンクラブ・会社・諸団体等による協働体制、豚汁作り・救護・ロープ回収などのスタッフ立候補。今年もたくさんの参加者が見込まれます。

たくさんの参加者に来ていただき、楽しく作業していただくためには数多くのボランティア・スタッフが必要です。ぜひ、スタッフへの立候補をお願いします。

■スタッフの例(詳しくは事務局にお問い合わせください)■

- 1 駐 車 場 係→朝、車の誘導など(林道は緊急車両とゴミ収集車以外は駐車禁止)
- 2 受 付→朝、受付と班分け、資料と飲み物の配布など
- 3 班 の 世 話 役→各班の段取り。草刈り場所の提示。作業の進み具合を本部に連絡など
- 4 キッズ班世話役→子どもたちをブナじいさんに誘導。作業の支援など
- 5 豚 汁 係→豚汁の調理。炊事用ゴム手袋等は支給します。

当日朝来て、すぐにスタッフ仕事ができるようマニュアル本をお渡しします。また、各係にそれぞれ市・県・ファンクラブ世話人の誰かが配属され、その方から仕事内容が伝えられるようになっています。さらに、実施前には「草刈りボランティアの下見と準備の会」を行いますので、その場で仕事内容を確認することもできます。ボランティア・スタッフに立候補くださる方は事務局までご連絡ください。

■草刈りボランティア 下見と準備の会■

- 11月12日(日)雨天決行 10時 ロッジ前集合。午前中で終了。
- 内容 キッズのルート作り、草原の区割りのテープはり、ロッジやトイレの清掃、備品等の確認
- 午後 せっかくですからお弁当を食べて、午後から乙女高原の自然観察というのはいかが？

■注意事項

- ・一般参加の皆さんは手刈りのみにしてください。(刈り払い機は主催者がお願いした方のみ)
- ・林道への路上駐車は厳禁。(刈り草をゴミ収集車に積み込むので、路上駐車が一番困ります)
- ・「午前中の作業終了→記念写真→昼食」という流れにします。(途中でも作業を時間で打ち切ります)

■(株)田丸のゴミ収集車をお借りして藁撒き工法

昨年、山梨市によって設置されたシカ柵によって、草原の草花たちは回復してきています。だからこそ、草原の草刈りと草の運び出しはますます重要になります。刈った草を持ち出さないと草原の「富栄養化」が進み、ススキの一人勝ちになってしまいます。また、草原の中に生えてきた木の赤ちゃんと一緒に刈ってしまわないと遷移が進み、草原が森林になってしまいます。

今年も刈った草は(株)田丸のゴミ収集車をお借りして、琴川ダム残土処分場に運びます。ここに刈った草を運び込み、草原の自然再生を目指します。こ



れを「藁撒き工法」といいます。

■ブナじいさんの根元に落ち葉のふとんを

今年も子ども向けのプログラムである「キッズボランティア・ブナじいさんの根元に落ち葉のふとんを」を行います。毎年、保育園くらいのお小さい子から小学校高学年くらいまでが参加しています。乙女の草刈りには親子連れでご参加ください。

乙女高原裏山の「かなめ」の場所に立っているブナじいさんを応援するために、根元に落ち葉のふとんをかけ、ブナじいさんの栄養にしてもらいます。落ち葉が乾いていたら、落ち葉のプールで遊びましょう！



続けて観るから楽しい！ 乙女高原自然観察交流会 7月1日(土)

※山本義人さんのレポートです

7月の観察交流会はヤチボウズ観察会を兼ねて行われ、すでに報告されていますので、感想だけ述べます。湿地及び周辺には5種類のスゲ仲間が生育していて、その中でタニガワスゲが乙女高原のヤチボウズの生みの親だということがはっきりわかりました。そのタニガワスゲと地形、水の流れや冬の凍結など、自然の微妙な相互関係でヤチボウズが生まれてくるということも、参加してくれた小さな子供たちにもわかるように植原さんが説明してくれたのが、大変良かったです。観察会のタイミングも、スゲ仲間がちょうど花穂を出していた時期なので、植原さんが用意してくれた写真と見比べて子供たちが種類を同定できたのも、とっても良かったです。

ロッジでお弁当を食べてから、雨も上がり、午後からの観察交流会は、ツツジコースから草原コースへと回り、展望台広場を経てブナ爺さんまで行き、帰りは林道を歩いてロッジへと戻りました。植原さんはアヤメにマルハナバチが入るのを見なかったようですが、私も他のメンバーもそれぞれ見えて、私が見たのはミヤママルハナバチでした。草原内はアヤメに圧倒されてしまっていたが、オオヤマフスマ、キンポウゲなども咲いていて、レンゲツツジの花もまだ残っていました。ヒメシロコブゾウムシ、ドロハマキチョッキリ、エゾアオカメムシなどの虫たちも、幼虫も含めたくさん見られ、これからの乙女高原訪問には昆虫図鑑が必須だと思いました。

今回見つけた黒い毛の長い幼虫1種が、植原さんに図鑑で確認してもらって、「くまけむし」という別名をもつシロヒトリの幼虫だとわかりました。観察を終えて後でいろいろ調べてみることも楽しみで、「そうなんだ」と興味のわくことに出会える喜びがあります。シロヒトリはヒトリガの仲間、ヒトリガは漢字で書くと火取蛾だそうです。電気のなかった昔、夜行性の蛾は火を見ると飛んできて、しまいには火の中に飛び込んでしまったりすることから、「飛んで火にいる夏の虫」というコトワザの由来になった虫だということがわかりました。

※追記 柳平分校裏手のコミネカエデとミヤマザクラの花後の果実を観察し、さらに、昨年から継続観察している琴川ダムのヤドリギの果実の成長具合を確認してから帰りました。

■乙女高原観察交流会■

- 乙女高原ファンクラブとしての行事でなく、参加者各自の自主的活動として行うもので、活動に伴う旅費や飲食、傷害保険などすべて自己責任となります。
- 途中からの参加や午前中だけの参加など自由ですが、解散時間の目安は、現地3時、道の駅3時半とします。
- 集合は道の駅「はなかげの郷牧丘」午前9時。雨天の場合などは現地には行かず、道の駅での交流会にしたり、早めに散会するなど、参加者各自の意思で決めてもらいます。
- 参加者は、乙女高原ファンクラブのメルマガメンバーとしますが、お知り合いを同行されることは自由です。
- 乙女高原観察を通じた交流目的のため、参加者間で情報を共有できるように、乙女高原ファンクラブ世話人会の了承のもと、メルマガなどを利用させていただきます。

●今後の予定●

- 10/07 土 9:00～ 乙女高原自然観察交流会⑦
- 11/04 土 9:00～ 乙女高原自然観察交流会⑧
- 12/02 土 9:00～ 乙女高原自然観察交流会⑨ & カヤネズミの巣調査
- 01/06 土 9:00～ 乙女高原自然観察交流会⑩
- 02/03 土 9:00～ 乙女高原自然観察交流会⑪
- 03/03 土 9:00～ 乙女高原自然観察交流会⑫

夜のネズミ調査大作戦 夜、草原にワナを仕掛けたら？

昨年 2016 年の草刈りボランティアで、ススキの株に地上巢が見つかった以来、「乙女高原にカヤネズミ!!!」と、大盛り上がりだった我々ですが、徐々に！が？へと変わりつつあります。乙女高原にカヤネズミが本当にいるかどうかはつきりさせるため、草原内にわなをしかけることにしました。

9月3日夕方、元麻布大学教授の高槻先生を団長とした乙女高原ネズミ調査隊員7人がロッジ前に集結しました。簡単な打ち合わせの後、草原内に入り、ネズミのわなをしかけました。わなの名前は「シャーマントラップ」。高槻先生が40個を調達してくださり、それを草原の中に10個ずつ並べて置きました。並べる間隔は2~5m。場所を決めたら、わなを組み立てます。組み立てるといっても、折り畳んであるわながパネ仕掛けでシャキーンと自動的に細長い箱型に変形してくれます。入り口を開けて、それが閉じないようにロックし、中に、ネズミをおびき寄せるためのえさ(お菓子のトンガリコーン)を入れます。わなの中にネズミが入り、床がちょっとでも沈むと、ロックが外れてドアが瞬時に閉まり、ネズミが閉じ込められるしかけです。わなを置いたら、置いた場所が暗闇の中でも分かるように、反射テープを付けたポールを刺したり、蛍光テープをつけた洗濯ばさみをわなの真上の草に付けたりしました。



調査隊はいったん解散し、深夜11時に再度、乙女高原に集結。わなの点検に向かいました。点検は明朝の1回だけでもいいのですが、それだとかかったネズミを長時間わなの中に閉じ込めてしまうことになるので、それに加えて深夜に一回、点検することにしたのです。ちなみにネズミがわなにかかっていたら、体長や体重を計測し、写真を撮って逃がす計画です。真っ暗な乙女の草原の中に分け入り、40個のわなを探して点検したのですが、入っているネズミはいませんでした。残念。

翌日は月曜日だったので植原は失礼してしまったのですが、高槻先生たちは翌朝、点検とわなの回収を行い、ヒメネズミ1頭とハタネズミ2頭がかかっているのを確認されたそうです。

9月17日、大勢のボランティア調査員とともに2度目の調査をする予定でしたが、台風の接近に伴い、林道が閉鎖されてしまうことが判明。残念ながら中止となり、そのリベンジを9月23~24日に行いました。今度は高槻先生と植原だけでした。

調査の方法は前回と同じ。わなの中にトンガリコーンを入れて、ススキの根元に置いていきます。今回は設置場所と前回と少々変えてみました。設置作業を終えても、まだ日没まで時間があつたので、植物調査も行いました。

調査を終え、植原が遊歩道を散歩していると、草原の中からカリカリ大きな音が聞こえます。「!」と思い、すぐに高槻先生を呼んできました。音のした近くのわなを見てみると、わなのとびらが閉まっています。中に何かが入っているに違いありません。高槻先生が慎重にわなの中身をチャック付きビニール袋に移すと・・・それは黒々とした毛並みのネズミでした。目は小さくてまん丸。耳はとても小さく、体のラインから飛び出ていません。しっぽは短め。体の半分もないでしょう。ハタネズミです。写真を撮りました。そして、ビニール袋の外からそっと触ってみました。温かなネズミの体温が伝わってきました。キッチンスケールで重さを測り、逃がしてやりました。逃げる瞬間の写真を撮りたかったのですが、あっという間に草の茂みに隠れて、見えなくなっていました。ネズミと一緒に中に入ってしまったお菓子の残り+ビニール袋の重さをもう一度測り、さっきの測定値から引くと、ネズミの体重は48gでした。



翌朝、高槻先生と一緒にわなを回収しながら、確認しました。昨日、セットしてすぐにネズミがかかったのですが、期待していたのですが、かかっていたのは2頭のハタネズミのみでした。昨日のを含めると、わなを40個仕掛けて、3頭のハタネズミという結果でした。カヤネズミにも、アカネズミにもお目にかかれませんでした。

でも、「乙女高原の仲間」の一種、しかも、めったなことでは人前に姿を表さない動物に出会えたのですから、それだけで十分。生きものとの出会いってやっぱりワクワクします。この日は一日中植生調査も行い、ヘトヘトになりました。とても充実した2日間でした。

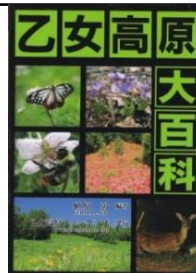


●来年1月28日の乙女高原フォーラム講師を北垣憲仁さんをお願いしたら、快く引き受けてくださいました。北垣さんは小さな哺乳類たちの生活を研究している都留文科大学の先生です。NHK「ダーウィンがきた」にもカワネズミの回に出演されています。乙女高原の小さな哺乳類たちのお話をさせていただきます。

乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁) 草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら360円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,360円送金してください。



乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判 186頁) 乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。→[在庫切れ](#)

乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



フィールドガイドIII スミレの観察のおともに『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー) 乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

フィールドガイドII マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー) マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

フィールドガイドI 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー) フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

今号は普通会员のみに送付しています。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】 植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ